

病害虫発生予報 第5号

(向こう1ヶ月間の発生予報)

I 総括表

作物名	病害虫名	地域	発生量	発生時期	摘要
水稲	穂いもち	全域	並	並	
	紋枯病	全域	並~やや多	並	
	白葉枯病	全域	少ない	並	
	ツマグロヨコバイ	全域	並~やや多	並	
	セジロウンカ	全域	やや少	並	
	カメムシ類(斑点米)	全域	やや多	並	
	体ツムシ(イモジセリ)	全域	やや少	並	
	イナゴ	全域	並~やや多	並	
大豆	紫斑病	全域	並	並	
	子実害虫類	全域	並~やや多	並	
りんご	黒星病	全域	やや少		
	斑点落葉病	全域	並		
	褐斑病	全域	並		
	すす点病・すす斑病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並~やや多	並	
	炭疽病	全域	並~やや多	並	
	リンゴハダニ	全域	並		
	ナミハダニ	全域	並~やや多		
	ナシヒメシンクイ	全域	並	並	
	モモシンクイガ	全域	並	並	
	スモモヒメシンクイ	全域	やや多	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
	キンモンホソガ	全域	並~やや多	並	
なし	黒斑病	全域	並		
	黒星病	南信	並		
	輪紋病	全域	並	並	
	うどんこ病	全域	並		

なし	枝幹性病害(胴枯・枝枯病)	全域	並		
	ハダニ類	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
	シンクイムシ類	全域	並	並	
もも	カメムシ類	全域	並	並	
	灰星病	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並~やや多		
	シンクイムシ類	全域	並	並	
ぶどう	モモハモグリガ	東信	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
	べと病	全域	やや少	並	
きゅうり	さび病	全域	並	並	
	チャノキイロアザミウマ	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並~やや多	並	
レタス	褐斑病	全域	並~やや多	並	
	うどんこ病	全域	並	並	
	斑点細菌病	全域	並~やや多	並	
はくさい	腐敗病	全域	並~やや多	並	
	軟腐病	全域	やや多	並	
キャベツ	軟腐病	全域	やや多	並	
ブロッコリー	黒腐病	全域	並~やや多	並	
アブラナ科野菜	黒腐病	全域	並	並	
	黒斑細菌病	全域	並~やや多	並	
アスパラガス	コナガ	全域	並	並	
	茎枯病	全域	やや多	並	
野菜・花き 共通	斑点病	全域	並	並	
	オオタバコガ	全域	並~やや多	並	
	アブラムシ類	全域	並	並	
	ハモグリバエ類	全域	並~やや多	並	
	アザミウマ類	全域	やや多	並	
	ハダニ類	全域	並~やや多	並	

Ⅱ 向こう1か月の気象予報（長野气象台 8月8日発表）

1 予想される向こう1ヶ月の天候（8月10日～9月9日）

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。特に2週目は、気温がかなり高くなる可能性があります。太平洋高気圧に覆われやすく、向こう1か月の日照時間は平年並みか多い見込みです。なお、期間のはじめは台風第10号の影響を受ける可能性があります。

2 向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各階級の確立（%）

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10	30	60
降水量	30	40	30
日照時間	20	40	40

Ⅲ 水稲

1 穂いもち

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 8月上旬の葉いもちの発生は、全般に平年に比べて少ない傾向であった。
 - 気象要因（－） 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- 上位葉に病斑が目立つ場合は、穂ばらみ期と出穂期に穂いもち防除を徹底し、穂いもちの多発生が予想される場合には、さらに出穂5日後と10日後の2回防除を行う。

2 紋枯病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 7月下旬の巡回調査では平年よりも発生は少なかったが、8月上旬の調査では、発生が増加しているほ場が散見された。
 - 気象要因（＋） 高温及び降雨は本病の発生を助長する。向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- 病勢が上位葉鞘へ進展し始める出穂前2週間～出穂期に薬剤防除を行う。

3 白葉枯病

- (1) 予報の内容 発生量：少ない 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 巡回調査等での発生は現在まで確認されておらず、発生量は平年より少ないと推測される。
- (3) 防除上の留意点

- 常発地では、本病に感受性の高い品種を作付けしている場合は注意する。
- 高温、多湿、浸冠水は発生を助長するので留意する。

4 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 7月下旬の巡回調査における発生は、全般に平年に比べてやや多かったが、一部地域で発生の多いほ場がみられる。
 - 気象要因（＋） 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- 防除薬剤の特性を考慮して使用時期に留意する。

5 セジロウカ

- (1) 予報の内容 発生量：やや少 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 7月下旬の巡回調査では、平年に比べて少ない発生であった。
- (3) 防除上の留意点
- 今後の予察情報に注意する。

6 カメムシ類（斑点米）

- (1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 予察灯による誘殺調査では、県下全6地点でアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数が6月6半月以降平年に比べて多い傾向であった。また、7月上旬及び下旬の巡回調査（ネット20回振）における捕獲頭数は平年に比べて多かった。これらのことから、斑点米が多発する恐れがあるため、7月25日付けで注意報第1号（斑点米の原因となるカメムシ類）を発表した。
 - 気象要因（＋） 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高いと予想されており、カメムシ類の活発な活動が予想される。
- (3) 防除上の留意点
- 茎葉散布剤の防除適期は出穂10日後である。カスミカメ類では防除時期が早すぎると効果が劣る場合があるので、防除時期に留意する。
 - 粒剤による防除は、薬剤により防除時期が異なり、出穂期または出穂7日後に行う。湛水状態で均一に散布し、散布後少なくとも7日間は止水とし、湛水状態を保つ。
 - 常襲発生地など発生が多い地域（ほ場）では、さらに7～10日後に追加の茎葉散布を行う。
 - 粉剤はドリフトしやすいので、ミツバチ等への危被害に注意する。

7 イネツトムシ（イチモンジセセリ）

- (1) 予報の内容 発生量：やや少 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 黄色粘着トラップを用いた第1世代成虫の発生予察調査によると、発生時期は平年並みで、7月の誘殺数は平年に比べてやや少ない傾向であった。

8 イナゴ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査(ネット20回振)における発生量は、東北信地域は平年並み、中南信地域では平年に比べて多かった。

(3) 防除上の留意点

- ① 多発ほ場では早期に防除を実施する。

IV 大豆

1 紫斑病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 前年の発生は平年並で、保菌種子や被害残さでの越冬量は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

- ① 開花終期～粒肥大初期に、莢部へ薬剤が十分かかるように散布する。
- ② チオファネートメチル剤の耐性菌が確認されている地域では、同一系統の薬剤の使用を避ける。

2 子実害虫類(マダシカバ・シロイロジマダラメイガ・カメムシ類・ダマシヤウバエ)

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 前年の発生は全般に平年並であった。
- ② 気象要因(+) 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高いと予想されており、害虫類の活発な活動が予想される。

(3) 防除上の留意点

- ① カメムシ類を除いて、連作ほ場で発生が多くなる傾向がある。
- ② 防除適期は幼莢期～子実肥大期(例年は8月中旬～9月上旬頃)である。薬剤は莢に十分かかるよう丁寧に散布し、発生が多い場合は7～10日間隔で2～3回散布する。
- ③ 山際や法面の大きい傾斜地では、カメムシ類の発生が多い傾向にある。カメムシ類の被害は、稔実中後期にも大きいので注意する。

V りんご

1 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：**やや少**

(2) 予報の根拠

- ① 7月下旬までの巡回調査では、北信地域を中心に発生が散見されているが、発生量は平年と比べやや少ない。

(3) 防除上の留意点

- ① 秋季に再び、病勢の伸展がみられる場合があるので、10月上旬まで定期的に予防散布

を行う。

- ② DMI 剤耐性菌のまん延防止のため、使用する殺菌剤は農業改良普及センター、JA などの指導を受けること。

2 斑点落葉病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 7月下旬までの巡回調査では、「平年並」の発生量であった。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択し、定期的に予防散布を行う。

3 褐斑病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 7月下旬までの巡回調査では発生がみられなかったが、8月上旬の巡回調査では一部のは場で発生がみられた。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の気象予報では、晴れの日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択し、定期的に予防散布を行う。

4 すず点病・すず斑病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では一部のは場で発生がみられたが、他のほ場では発生はみられなかった。
- ② 気象要因(-) 向こう1ヶ月の気象予報では、降水量は平年並みと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択し、定期的に予防散布を行う。
- ② 中晩生種では8月中旬～9月上旬頃まで、降雨の多い場合は9月中下旬頃まで防除する。ただし、薬剤の選択にあたっては、品種の収穫期と薬剤の使用時期に注意する。

5 輪紋病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では発生はみられなかった。
- ② 7月の降水量は、平年と比べ多かった。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択し、定期的に予防散布を行う。

6 炭疽病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 巡回調査では発生がみられなかった。
- ② 7月の降水量は、平年と比べ多かった。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択し、定期的に予防散布を行う。
- ② 発病果は見つけ次第除去し、土中に埋める。

7 リンゴハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬卵がみられたほ場を中心に発生がみられているが、全般に「平年並」の発生であった。
 - (3) 防除上の留意点
 - ① 園内を良く見回り、早期発見に努める。
 - ② 発生を認めたら「県防除基準」に従って殺ダニ剤を選択し、速やかに防除する。
 - ③ 殺ダニ剤の散布前には徒長枝切りや枝吊りを行い、樹冠内部まで薬液が十分にかかるようにする。また、手散布やSSの縦横走行散布などで散布ムラを補う。
 - ④ 多発が予想される場合や発生が多い場合は散布量を増やし、散布間隔を短くする。

8 ナミハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多
- (2) 予報の根拠
- ① 巡回調査では、発生が多いほ場もあるが全体的には平年並みの発生である。
 - ② 気象要因(+) 向こう1ヶ月の気象予報では、晴れの日が多いとされており、特に2週目は気温が高くなると予想されている。
 - (3) 防除上の留意点
 - ① 高温が続き降雨が少ない場合は、発生状況をよく観察して早めに防除する。
 - ② 発生を認めたら「県防除基準」に従って殺ダニ剤を選択し、速やかに防除する。
 - ③ 殺ダニ剤の散布前には徒長枝切りや枝吊りを行い、樹冠内部まで薬液が十分にかかるようにする。また、手散布やSSの縦横走行散布などで散布ムラを補う。
 - ④ 多発が予想される場合や発生が多い場合は、散布量を増やし、散布間隔を短くする。

9 ナシヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 発生量は「平年並」と推測された。
 - (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除基準」に従い、薬剤を選択して防除する。

10 モモシンクイガ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺数は、ほぼ平年並であった。
 - (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除基準」に従い、薬剤を選択して防除する。

11 スモモヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 各地のフェロモントラップ調査によると、第2世代成虫の誘殺数が平年より多い。
 - ② 巡回調査で果実被害がみられている。

- ② 気象要因(+) 向こう1ヶ月の気象予報では、晴れの日が多いとされており、特に2週目は気温が高くなると予想されている。
- (3) 防除上の留意点

 - ① りんご園では、第2世代成虫が発生する8月上中旬から重要防除時期となる。シンクイムシ類に登録のある薬剤を選択し、防除間隔を空けずに丁寧に散布する。

12 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 第1世代成虫の発生時期及び発生量は、ほぼ「平年並」であった。
 - (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除基準」に従い、薬剤を選択して防除する。

13 キンモンホソガ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 各地のフェロモントラップ調査では、第2世代の誘殺数が平年と比べ多い地域があった。
 - ② 巡回調査で、被害葉率が低いものの各地で被害葉が散見されている。
 - (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除基準」に従い、薬剤を選択して防除する。

VI なし

1 黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 巡回調査において、平年並みの発生であった。
 - (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除暦」に従い薬剤を選択し、必要に応じて防除する。

2 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 気象要因(-) 平年に比べ気温が高く、晴れの日が多めとなる見込みである。
 - ② 巡回調査において、平年並みの発生であった。
 - ③ 生育前半は発生が広がっていたが、果実への感染はほとんどみられない。梅雨明け後は高温乾燥で果実への感染は起きにくい条件である。これまでの発生量は全般に平年並だったと推測される。今後も平年並みの発生と思われる。
 - (3) 防除上の留意点
 - ① 発生園地では「県防除暦」に従い薬剤を選択し、防除する。

3 輪紋病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠

- ① 気象要因(一) 平年に比べ気温が高く、晴れの日が多めとなる見込みである。
- ② 梅雨期の降雨は多く、その後は高温乾燥が続いたため、感染量は平年並からやや少ないと推測される。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 特に無袋栽培の西洋なしでは今後の降雨に留意し、防除暦に従って防除する。

4 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では発病はみられず、これまでの発生量は平年並だったと推測される。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 常発園等被害のあった園では、収穫後に薬剤防除を行う。

5 枝幹性病害(胴枯病・枝枯病)

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では発病はみられず、これまでの発生量は平年並だったと推測される。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 防除暦に従って薬剤を選択し、幹までよくかかるように薬液を散布する。

6 ハダニ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では平年並みの発生量であった。
 - ② 気象要因(+) 1カ月予報では、晴れの日が続き、気温が高い状態が続くとされている。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 寄生を確認し必要に応じて殺ダニ剤を散布する。

7 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では寄生はみられず、これまでの発生量は平年並と推測された。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 寄生が多い場合は「県防除暦」に従い薬剤を選択し防除する。

8 シンクイムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① ナシヒメシンクイのフェロモントラップへの誘殺は、平年並みに推移している。
- (3) 防除上の留意点
 - ① シンクイムシ類に登録のある薬剤を選択し、丁寧に散布する。多発園では散布間隔を10日間に縮める。気温が高く推移した場合、晩生種で被害が多くなる傾向があるので、最終防除時期が早くなりすぎないように注意する。

9 カメムシ類

- (1) 予報の内容 平年並み：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠

- ① チャバネアオカメムシのフェロモントラップへの誘殺は、平年同様に推移している。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 園地内をよく観察し飛来があれば必要に応じて防除する。

Ⅶ もも

1 灰星病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では、発生量はほぼ「平年並」であった。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除基準」に従い薬剤を選択して防除する。発病果は見つけ次第除去して土中に埋める。

2 ハダニ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では、一部のは場で発生がみられた。
 - ② 気象要因(+) 向こう1ヶ月の気象予報では、晴れの日が多いとされており、特に2週目は気温が高くなると予想されている。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 発生を認めたら「県防除基準」に従って殺ダニ剤を選択し、多発する前に防除する。

3 シンクイムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① モモシンクイガ越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺数は平年並であり、全般的には平年並と推測された。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除基準」に従い、薬剤を選択して防除する。

4 モモハモグリガ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では、幼虫による寄生葉はみられず、全般に「平年並」であった。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 第4世代成虫の発生始期(8月中下旬頃)に「県防除基準」に従って薬剤を選択して防除する。なお、使用する薬剤の使用時期及び品種に注意する。
 - ② 多発は場では9月上旬にも、登録のある殺虫剤を散布する。

5 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠

- ① 第1世代成虫の発生量、発生時期ともに「平年並」と推測された。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除基準」に従い、薬剤を選択して防除する。

Ⅷ ぶどう

1 べと病

- (1) 予報の内容 発生量：**やや少** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上旬の巡回調査で発生がみられているが、発病新梢率等発生量は平年と比べ少ない。
 - ② 気象要因 (-) 向こう1ヶ月の気象予報では、晴れの日が多いとされている。
- (3) 防除上の留意点
 - ① ボルドー液で予防散布に努める。
 - ② 散布ムラが生じないように新梢管理を適正に行う。

2 さび病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査で発生はみられていない。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 農薬登録のあるボルドー液等を散布する。

3 チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査では、一部のほ場で被害葉がみられたが被害程度は低かった。
 - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象予報では、晴れの日が多いとされており、特に2週目は気温が高くなると予想されている。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除基準」に従い、薬剤を選択して防除する。

Ⅸ 野菜

1 キュウリ炭疽病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上旬の巡回調査では一部地域の露地栽培ほ場で発生がみられている。
 - ② 例年、露地栽培後半の時期に発生が多い。
- (3) 防除上の留意点

- ① 多発葉は早めに除去する。
- ② 窒素過剰は発病を助長するので、施肥量に注意する。

2 キュウリ褐斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上旬の巡回調査では一部地域の露地栽培ほ場で発生がみられている。
 - ② 本病は、露地栽培後半の高温多雨条件で発生が多い。
 - ③ 病原菌の発育適温は30℃前後である。
 - ④ 気象要因 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
 - ② ハウスでは高温多湿を防ぎ、多発葉は除去する。
 - ③ 窒素過剰は発病を助長するので、施肥量に注意する。

3 キュウリうどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上旬の巡回調査では発生はみられなかったが、一部施設栽培（抑制）ほ場で発生がみられている。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
 - ② 下葉で発病の著しいものは摘葉する。

4 レタス斑点細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上旬の巡回調査では、一部地域で発生がみられている。
 - ② 雷雨などの強い降雨で作物が傷むと、細菌性病害が発生しやすくなる。
 - ③ 気象要因 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 降雨後は、速やかに防除を実施する。
 - ② 害虫による食害は本病の発生を助長するので、害虫防除に努める。
 - ③ 予防散布を基本として、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。

5 レタス腐敗病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上旬の巡回調査では、一部地域で発生がみられている。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 降雨後は、速やかに防除を実施する。
 - ② 夕立等の降雨状況に応じ、防除時期・回数を決定する。
 - ③ 「県防除基準」により薬剤を選択して予防防除を行う。

6 レタス軟腐病

- (1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 8月上旬の巡回調査では、各地の生育期後半のほ場で発生がみられている。
 - 雷雨など、強い降雨で作物が傷むと細菌性病害が発生しやすくなる。
 - 高温時の降雨により発生が多くなる。
 - 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- 毎年多発するほ場では予防を徹底し、排水対策や耕種的防除に努める。
 - 降雨後は、速やかに防除を実施する。
 - 予防散布を基本として、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。

7 ハクサイ軟腐病

- (1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 8月上旬の巡回調査では、一部地域で発生がみられている。
 - 雷雨など、強い降雨で作物が傷むと細菌性病害が発生しやすくなる。
 - 高温時の降雨により発生が多くなる。
 - 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- 毎年多発するほ場では、予防を徹底し、排水対策や耕種的防除に努める。
 - 降雨後は、速やかに防除を実施する。
 - 予防散布を基本として、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。

8 キャベツ黒腐病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 8月上旬の巡回調査では、一部地域で発生がみられている。
 - 雷雨など、強い降雨で作物が傷むと細菌性病害が発生しやすくなる。
 - 気象要因 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- 予防散布を基本として、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
 - 過湿、過乾、高温期栽培、肥料切れのものに発生しやすい。

9 ブロccoli黒腐病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 8月上旬の巡回調査では発生はみられなかった。
 - 雷雨など、強い降雨で作物が傷むと細菌性病害が発生しやすくなる。
 - 気象要因 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並みと予想されている。

- (3) 防除上の留意点
- 予防散布を基本として、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
 - 過湿、過乾、高温期栽培、肥料切れのものに発生しやすい。

10 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 8月上旬の巡回調査では、一部地域で発生がみられている。
 - 雷雨など、強い降雨で作物が傷むと細菌性病害が発生しやすくなる。
 - 気象要因 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- 毎年発生するほ場では、定植直後からの予防防除を重視する。
 - 予防散布を基本として、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。

11 コナガ(アブラナ科野菜)

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 8月上旬の巡回調査では、一部地域で食害がみられている。
 - 本種は高温で発生量が減少する。
 - 気象要因 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
 - 同一系統剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

12 アスパラガス茎枯病

- (1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 8月上旬の巡回調査では、一部地域で発生がみられている。
 - 例年9月以降の降雨で、発生が増加する。
 - 気象要因 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- 風通しの悪いほ場で多発するので、過繁茂にしないよう茎葉の整理を励行する。
 - 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
 - 敷きわらや土寄せをして、土壌の跳ね返りによる病原菌の付着を防ぐ。

13 アスパラガス斑点病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 8月上旬の巡回調査では発生はみられなかった。
 - 例年9月以降の降雨で、発生が増加する。
- (3) 防除上の留意点
- 風通しの悪いほ場で多発するので、過繁茂にしないよう茎葉の整理を励行する。

- ② 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
- ③ 敷きわらや土寄せをして、土壌の跳ね返りによる病原菌の付着を防ぐ。

14 オオタバコガ（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査ほのトマトでは、果実への食入被害がみられている。
 - ② 気象要因 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 幼虫の早期発見に努め、若齢幼虫を対象に防除を徹底する。
 - ② 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
 - ③ 果菜類では、被害果の早期摘果と処分（土中に埋める等）を徹底する。また、花きで摘芯・摘花した脇芽・花蕾等も果菜類に準じて適正な処分を行う。
 - ④ 施設栽培では、開口部を寒冷紗等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。

15 アブラムシ類（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上旬の巡回調査では被害はみられていない。
- (3) 防除上の留意点
 - ① CMV等のウイルスを媒介するので、早期防除を心がける。特に果菜類では、よく観察し、アブラムシのコロニーを見つけたら速やかに防除を実施する。
 - ② 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
 - ③ 施設では天敵の利用も考慮する。

16 ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上旬の巡回調査ではねぎで被害がみられた。
 - ② 気象要因 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年並みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 多発する前に「県防除基準」に従い、薬剤を選択して防除する。
 - ② 施設では一年中発生する。
 - ③ ナモグリバエは夏季の発生は少ないが、秋には増加する。

17 アザミウマ類（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上旬の巡回調査では中南信地域のねぎ及び各地のアスパラガスほ場で寄生がみられている。
 - ② 露地栽培の野菜花き類では、例年これから被害が増加する時期である。
- (3) 防除上の留意点
 - ① TSWV等のウイルスを媒介するので、早期発見に努め、被害や成虫を確認したら直

ちに防除を実施する。

- ② 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。

18 ハダニ類（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上旬の巡回調査では一部地域のアスパラガス及びきくほ場で寄生がみられている。
 - ② 露地栽培の野菜花き類では、例年これから被害が増加する時期になる。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 乾燥条件が続くと多発する。
 - ② 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
 - ③ 同一殺ダニ剤の使用は、栽培期間中1回を厳守する。
 - ④ 施設栽培では防除が遅れると多発するので、早期防除に努める。